

近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所
資料配布

配布日時	平成24年10月1日 16時45分
------	----------------------

件名	台風17号洪水における大滝ダム、猿谷ダムの洪水対応
----	---------------------------

概要	<p>【大滝ダム】 紀の川水系大滝ダムでは、台風17号に伴う洪水に対して、ダムへの流入が最大で毎秒約1,500m³に対して、ダムからの放流を最大で毎秒約600m³とする洪水調節を実施し、五條地点において約1.5mの水位低下効果があったものと推定されます。</p> <p>【猿谷ダム】 新宮川水系猿谷ダムでは、台風17号に伴う洪水に対して、空き容量を活用し、ダムへの流入が最大で毎秒約700m³に対して、下流への放流を最大で毎秒約500m³とするゲート操作を実施し、下流への水位上昇を抑えました。</p>
----	---

取扱い	—
-----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 奈良県政記者クラブ 和歌山県政記者クラブ 和歌山県地方新聞記者クラブ 和歌山県政放送記者クラブ 五條市政記者クラブ
------	--

問合せ先	国土交通省近畿地方整備局 紀の川ダム統合管理事務所 副所長 河南 良男 管理課長 久内 伸夫 電話 0747-25-3013
------	---

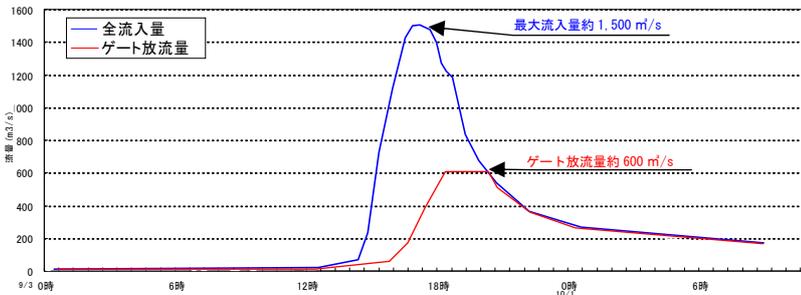
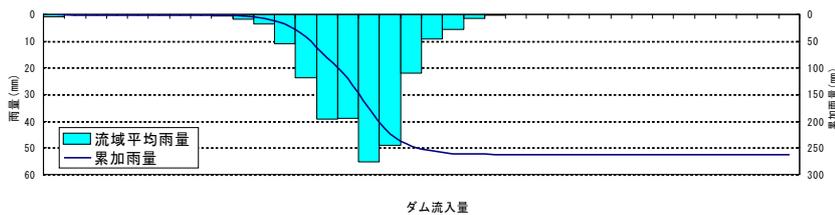
台風17号洪水における大滝ダム、猿谷ダムの洪水対応

1. 大滝ダムの洪水調節とその効果

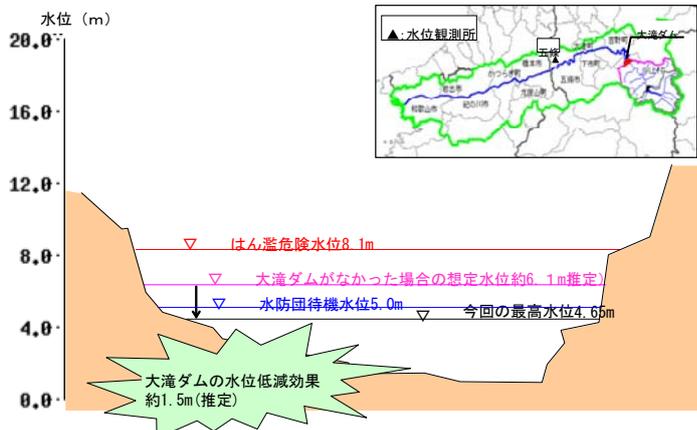
大滝ダムは、本年6月19日に試験湛水が完了し、平成25年4月から管理を目指しています。

6月19日の台風4号に伴う洪水に続き、昨日9月30日台風17号に伴う洪水においても洪水調節操作を行いました。

台風17号では、大滝ダム上流流域の平均累計雨量が260mm(速報値)に達し、ダムへの流入が最大で毎秒約1,500 m^3 となりました。大滝ダムでは、下流の洪水被害の軽減を目的とし、ダムからの放流を最大で毎秒600 m^3 とし洪水調節を実施しました。これにより、下流の五條地点では、大滝ダムがなかった場合に比べ、約1.5mの水位低下効果があったものと推定されます。



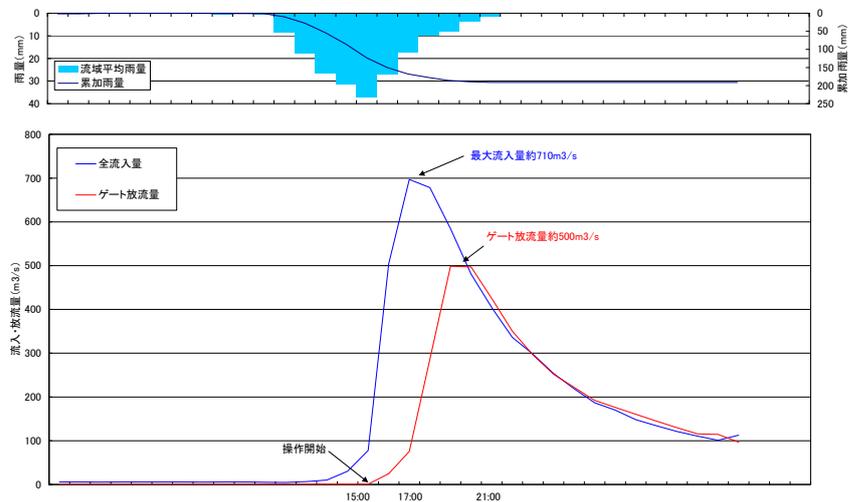
奈良県五條地点での効果



2. 猿谷ダムへのゲート操作

新宮川水系の猿谷ダムは、今年から、洪水が予想される場合にあらかじめ貯水位を低下させて空き容量を確保しておく、試行運用を行っています。

今回の台風17号は、台風による予測雨量等が貯水位を低下させる基準(※)に達していました。猿谷ダムは、かんがい期が終了した後であり、貯水位が標高約425m程度となっており、試行運用で設定している貯水位より低い貯水位の状況で、台風17号が来襲しました。台風17号では、猿谷ダム上流流域の平均累加雨量は190mm(速報値)で、ダムへの流入は最大で毎秒約700m³となり、洪水(毎秒1000m³)には達しませんでした。空き容量を活用し、下流への放流を最大で毎秒約500m³とするゲート操作を実施し、下流への水位上昇を抑えました。



※試行運用基準：台風が中心が北緯24度以北、東経128度～138度内にあり、予想進路が猿谷ダムへ近づき、33時間先までの9時間累積予測雨量が130mmを超えるとき、また、流入量毎秒1000m³を超えるとき